

自治の力を高めよう

初代総長、後藤新平の有名なことばに「自治の三訣」があります。

人のお世話にならぬよう 人のお世話をすよう そして酬いを求めぬよう

訣とは「秘訣」の訣、「奥義」のことです。「自治」は、自分のことを自分で処理することで、後藤総長が大正14年に書かれた「自治の三訣 ～処世の心得～」にも次のようにあります。

兎角(とかく)人間には、依頼心という弱味があつて、何かにつけて人を当(あて)にする傾向(かたむき)がある。この弱みに打勝ち、自分の身は自分の力で必ず始末を付けて行くという事になつて、始めて人には厄介を掛けず、同時に自己の天分を遺憾なく発揮することになる。

これは、自分へのつとめとして、自分のことを自分で解決できるよう自己を完成させること(人のお世話にならぬよう)ですが、さらに総長は、他への務めとして、自己の能力を発揮し社会奉仕すること(人のお世話をすよう)、そして神へのつとめを果たす(酬いをもとめぬよう)といったことを全て含めて自治の精神を説かれています。これは、ボーイスカウトの原理そのものです。

私たちは、野外で、班で、実際にやってみながら、直面する課題にどう対応するのか考えます。その経験を積み重ねることで、人の役に立てるようになり、務めを果たせたことへの感謝の気持ちが養われます。そうやって、総長のいわれる自治の力を高めていくのが、ボーイスカウトの方法です。

しかし、そういった本来の方法が、今、弱ってきているように感じます。自治の力を高めるべく、本来のスカウト教育を再認識し、邁進していきましょう。

1. スカウトに自治の力を身につけさせよう

班制教育の班。これは自治の練習場です。班で考えさせましょう。時間に追われ、情報過多の現代では、迅速な答を求めがちですが、それでは自治の練習にはなりません。自然を相手に、人を相手に、さまざまな問題をどう解決するかじっくりと考えさせることが必要です。

新しい進級課程は、班の課題が設定しやすく、班活動の中で取得できます。大いに活かしましょう。

2. 指導者も自治の精神で取り組もう

スカウトに自治の力を身につけさせるには、指導者に、スカウトに任せながら手引きをすることが求められます。新しい研修所のシステム(とりわけスカウトコース)は、野営を中心とするスカウト的なプログラムの発想を学び、自治も体験できるようになっていますが、同じ体験を常日頃スカウトに提供するには、より上位の研修が求められます。インサービス・サポートを受け、さまざまな研修機会を捉え、実修所にも参加し、自己を磨きつづけましょう。

そして、さらに大事なのが、指導者自身が自治の精神で取り組む姿勢です。今までそうしてきているから、同じようにすれば楽だからと思考停止せず、自身の活動をきちんと評価し、より良い方法を考え続けていきましょう。

3. 組織としての自治を重視しよう

団・地区・県連という組織にも、構成員がそれぞれの役務の責任に基づき、知恵を絞って問題解決に当たるといふ自治が求められます。ひとりのスカウトがスカウト教育を受ける20年間、私たちは一定の教育を提供し続けなくてはなりません。スカウトに自治の力を身につけさせる環境を整えるには、多くの問題を解決する必要があります。力を結集して乗り越えていきましょう。

最後に、後藤総長は次のようにも書いています。

此の精神が旺盛になると、自己を何処までも働かせて行くという独特の想像力が湧き、それが限らない進歩向上の努力を続けて行く動力となり、個人も社会も国家も緊張した無数の生命を得て、極度まで邁進せねば己(や)まぬという発展性が躍動するものである。